

第1学年5組 道徳指導案

- 1 主題名 周りの人々に希望を与える生き方〔内容項目D-（22）：よりよく生きる喜び〕
(1時間完了)
(資料名 「カーテンの向こう」 出典：明るい人生(愛知県教育振興会 一部改作)

2 ねらい

ヤコブが自ら病気で苦しみながらも、周りの人に期待と希望を与えようとしたことに気づくことを通して、逆境や苦しい立場に立っても、周りの人を大切にして生きていきたいという道徳的心情を高める。

3 ねらいとする道徳的価値

人はだれしも辛かったり、思いどおりにいかなかったりすると、弱音をついつい吐いてしまう。それは自分一人の時もあれば、相談する時に発することもあり、弱音を吐くことはだれもが経験することである。しかし、集団生活において「たるい」「やりたくない」などの消極的な言葉を聞いた人々は、後ろ向きな気持ちになったり、意欲が低くなったりしてしまう。辛い時や思いどおりにいかない時こそ、自分や周りの人々を鼓舞し、明るい雰囲気をつくることで、乗り越えていきたいものである。

本資料で、自ら病気で苦しみながら、うそをついてまでも周りの人々の気持ちを明るくしようとしたヤコブの生き方にふれる。ヤコブの行為のすばらしさを感じ、自らが苦しい状況にあっても、周りの人々を気遣っていこうとする気持ちを高めたい。

4 ねらいとする道徳的価値に関する生徒の実態と願い

(1) 学級について

本学級は、学級の課題やよさなどについて、帰りのSTで伝えたり、みんなで話し合ったりしたことを実践しながら、一人一人がよりよい集団をつくろうとしている。STで全体に伝えた生徒に対して「はい。」と元気よく返事したり、成長する級長を認めたりするなど、相手を受け入れる気持ちが、よりよい集団の土台となっていると感じる。

しかし、自分にとって都合が悪いことがあると、「いやだ」「めんどくさい」「どうでもいい」「疲れた」などの消極的な言葉が、学級に広がることもある。その都度、「その言葉を聞いた人はどう思うか」と問いかけて、相手の立場や、集団の雰囲気を意識する必要性を説いている。自分の言動が、周りにどういう影響を与えるのか考えることができれば、人間関係をよりよく築いたり、学級の雰囲気がさらに温かくなったりすると考えている。

そこで、本資料を通して、自ら重い病気を患いながらも、周囲の人々に期待や希望を与えたヤコブの生き方のすばらしさを感じてほしい。現在の自分と、ヤコブの生き方を比較することで、苦しい状況にあっても、周りの人々を思いやることが大切であることに気づいてほしいと願っている。

(2) 抽出生徒について

① 抽出生徒Aについて

帰りのSTにおいて、級友からの連絡を聞いて「はい」「わかった」など、明るい対応をすることができる。このようなAの態度は、学級の雰囲気を明るく、前向きにしていると感じる。また、廊下に整列する際には「よし、並ぼう」と声をかけるなど、周囲を意識した言動が見られる。

本時で「ヤコブの生き方をどう思うか」の発問に対して、学級の雰囲気がよくなるような声をかけているAを認めることで自信をもたせ、これからの自分の在り方について具体的に考える場となるようにしたい。

②抽出生徒Bについて

給食の準備や片づけ、掃除など、黙々と行う姿が見られる。自然教室では、級友と声をかけ合ったり、進んで行動したりするなど、自分にできることを精一杯行っていた。しかし自分にとって都合が悪いことに対しては「いやだなあ」「最悪」などと、消極的な言葉を学級全体の中でついつい言ってしまうことがある。自分の言動が、周囲の人々にどのような影響を与えるのかを考えて話すことができるようになることが、Bの次のステップアップだと考えている。

本時で、やっとの思いでカーテンの向こうを見たわたしの心情を想像する際、ヤコブの行為のすばらしさに気づくことができるようにしたい。そこで、ヤコブの行為の意味に着目した意見について「Bはどう思う」と問いかけ、考えるように促す。「ヤコブの生き方をどう思うか」の発問に対して、さらに具体的に「ヤコブと今の自分を比べてどうか」と声をかけて考えるよう促すことで、自分を見つめ直し、周囲の人々を意識して生活していきたいという気持ちを抱く姿を期待している。

5 資料について

(1) 資料の概要

<前半>

イスラエルのある病室の一室。重症患者がベッドを並べて横たわっている病室では、見舞いの客も看護婦たちも来ず、変化のない毎日を過ごしている。起きあがることもできない患者たちには、何の楽しみもない。そんな患者にとっての唯一の楽しみは病室の閉ざされた窓に一番近いヤコブが、体をやっとの思いでねじ曲げながら、カーテンのほんの小さな隙間に顔を突っ込んで外の様子をながめ、それをみんなに話してくれることである。ほとんど完治する見込みのない患者たちにとってヤコブの話は、せめてもの希望である。しかし、わたしは次第にヤコブだけが外の世界を見られることを何となく憎らしいと思うようになってきた。そして、死を間近にどうしてもベッドを替えてほしいと願う患者の申し出をも無視し、ベッドを譲ろうとしないヤコブを死ねばいいと思うようになる。

<後半>

ヤコブは亡くなる寸前まで外の様子を伝えていた。みんなが悲しんだヤコブの死をどこかで笑っているわたし。とうとう窓際のベッドに移動し、期待を膨らませてカーテンの隙間をのぞき込むとそこから見えたものは、なんと冷たいレンガの壁だった。

(2) 「耳をすまして、学びを拓く」ための資料の生かし方

①資料との対話をさせるための手だて

結末部分の印象を強めることができるようにするため、資料を「心の奥底では、にこりともしない自分がいた」のところで区切り、前半と後半に分ける。さらに、やっとの思いでカーテンのすき間をのぞきこんだ場面では、わたしの心情について想像をふくらませて考えることができるようにするため、動作化を取り入れる。

②他者との対話、自己内対話をさせるための手だて

やっとの思いでカーテンの向こうを見たわたしの思いを話し合う中で、ヤコブの行為のすばらしさにより深く迫ることができるようにするため、ヤコブがうそをついた理由に目を向ける生徒の意見を取り上げ、全体に広める。さらに、重苦しい雰囲気の中、うそをついてまでも、周囲の人々を大切にしたいヤコブの心情を深く想像することができるようにするため、「ヤコブはうそをつくことをどう思っていたのかな」と補助発問をする。

最後に「ヤコブの生き方を、あなたは どう思うか」と問いかける。ヤコブの気高さを感じた生徒たちに励ましの言葉をかけながら、ヤコブの生き方に憧れ、見習いたいという気持ちを抱く姿を願っている。

6 板書計画 (32ページ参照)

7 本時の展開

時間	学 習 活 動	※教師支援 ☆評価
7	<p>○資料前半の範読を聞く。 ○登場人物と場面設定を確認する。</p> <p>死にそうなニコルの申し出を断ったヤコブを、あなたは どう思うか。</p> <p>全体 (①)</p> <p><批判> 最後ぐらいはかえてあげれば いいのに、けちだと思 思う。</p> <p><弁護> ヤコブには、何か他の理 由があったのかもしれない。</p> <p>他の人のことを考えてい ないから、最低だと思 思う。</p> <p>ヤコブも重傷患者だから、替わりたくても替わ ることができなかつたと思 思う。</p> <p>自己中心的な考えは、いけ ないと思 思う。</p>	<p>※物語のあらすじをつかむこ とができるようにするため 登場人物と場面設定を確認 する。</p> <p>※登場人物の心情を考えたり 場面の雰囲気を感じたりす ることができるようにする ため、場面絵を提示する。</p> <p>※ヤコブの行動を批判する意 見に集中することが予想さ れるが、終末での印象が強 まるようにするため、生徒 の意見をじっくり聞くよう にする。(①A:見守る)</p>
20	<p>○資料後半の範読を聞く。 ○やっとの思いでカーテンの向 こうを見るわたしの様子を演 技する。 ○実際の外の景色は冷たいレン ガの壁だったことを確認する。</p> <p>やっとの思いでカーテンの向 こうを見たわたしは、何を思 ったのだろう。</p> <p>○相互指名で発表する。</p> <p>全体</p> <p><落胆> 外の景色を見るのを楽 しみにしていたのに、が っかりした。(②)</p> <p><疑問> ヤコブはどうして嘘を ついていたのだろうか。(②)</p> <p><後悔> ヤコブは、みんなを喜ばせるためにうそをついていたの に、死んでほしいと思ったことに申し訳ないと思 った。(③)</p> <p><感心> 本当のことが知られたら、みんなが悲しむから ベッドを譲らなかつた んだ。ヤコブをいい人だ と思 った。</p> <p><決意> ヤコブの思いを受け継 いで、これからは自分が みんなに夢を与えたい。</p>	<p>※わたしの思いをより深く想 像することができるように するため、最後の一文を読 む前に、カーテンの向こう を見る動作を数人の生徒に 演じるよう促し、実際の景 色を見た感想を聞く。</p> <p>※相互指名の中でヤコブの行 為の意味について、「落胆」 「疑問」「後悔」としだいに 深く考えられるようにする ため、「がっかりした」「ど うして」など、ヤコブの行 為のすばらしさに気づいて いない生徒を第一発言者に する。(②C:気づかせる)</p> <p>※Bが②のような考えをもっ ている場合、ヤコブの心情 に着目した考えをもつこと ができるようにするため、 ③の意見についてどう思う か問いかけて、発表するよ うに促す。(②E:切り返す)</p>

【補助発問】
ヤコブは、みんなにうそをつくことをどう思っていたのだろう。

全体
うそをつくことは悪いと思っていたと思う。でも、みんなを元気づけるためには、うそをつき通した方がよいと考えていたと思う。

ヤコブは迷っていたと思う。でも、みんなの期待に応えるために、うそをついたことを辛く感じていたと思う。

4 0 ヤコブの生き方を、あなたはと思うか。

○ワークシートに記入し、数人が発表する。

全体
<否定>
うそをついてまでも、人を楽しませようとは思わないな。うそがばれたときに、がっかりさせしまうことになるよ。

<感心>
自分も辛いのに、みんなのことを考えるなんて、とてもじゃないができないよ。ヤコブはやさしい人だな。

<あこがれ>
ヤコブのように、自分や周りの人たちが苦しいときでも、思いやりの心を大切にすることができる人になりたいな。

4 9 ○教師の説話を聞く。

ヤコブの生き方に触れたことで、逆境や不利な立場に立っても、周りの人を大切にして生きていこうという気持ちが高まった姿。

※うそをついてまでも、周りの人々に期待と希望を与えていたヤコブの心情をより深く想像することができるようにするため、ヤコブがうそをついていた事実を取り上げ「ヤコブは、みんなにうそをつくことをどのように思っていたのか」と問いかけて、考えるよう促す。
(③C : ゆさぶる)
☆周りの人々に期待や希望を与えようとしたヤコブの心情を考えることができたかどうか。
(発言、ワークシート)
※これからの自分の在り方を具体的に考えることができるようにするため、AとBに個別に声をかける。
☆ヤコブの生き方から、逆境や苦しい立場に立っても、周りの人を大切にして生きていきたいという道徳的心情が高まったかどうか。
(発言、ワークシート)

※これから前向きに生活していこうという気持ちが高まるようにするため、教師自身の部活動での体験談を話す。

授業の視点

- ① 発問は、逆境や苦しい立場に立っても、周りの人を大切にして生きていこうという気持ちを高めるうえで有効であったか。
- ② ③Cにおける教師支援はヤコブの心情を読み深め、生徒の学びを拓くうえで有効であったか。

板書計画

